

対象地域：山梨県



事務局：山梨県小菅村多摩川源流  
研究所  
対象地域：山梨県小菅村の多摩川  
流域  
設立日：H16.3.5  
全体構想作成日：H20.3.21  
実施計画作成日：検討中  
(R4.3 現在)



村をフィールドに住民が講師となる  
「多摩川源流大学」の推進

関連ホームページ NPO法人多摩源流こすげ：<http://npokosuge.jp/>  
多摩川源流大学：<https://genryudai.jp/>

対象地域：大阪府



事務局：大阪府岸和田市  
対象地域：大阪府岸和田市神於山  
(市道福田内畑線と府道  
岸和田港塔原線によつ  
て区切られた面積約  
180ha の範囲。)  
設立日：H16.5.25  
全体構想作成日：H16.10.21  
実施計画作成日：H17.6.1  
(R4.3 現在)



神於山遠景

関連ホームページ

大阪府ホームページ：<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/midori/g-10kabusan.html>

岸和田市ホームページ：<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/29/kounoyamasizennsaisei2.html>

再生課題：森林の再生、景観の再生

# たまがわげんりゅうしそんさいきょうぎ 多摩川源流自然再生協議会

再生  
目標

多摩川源流域の河川、森林、里山、里地その他の自然環境を保全・再生・創出し、  
その状態を維持管理することを通して、自然と共生する社会の実現を目指す。



## 自然再生の手法

- ▶ 「源流らしさ、小菅らしさ」の里づくり
- ▶ 「安全で健康で豊かな」源流の里づくり
- ▶ 「自然に学び、自然と共生する」資源循環型の里づくり

本地域は、秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、豊かな自然がござっています。しかし、スギやヒノキなどの人工林は管理不足によって、表土の流出などが進んでおり、シカの食害も増加し、国土の保全や生物多様性の確保の見地から重大な問題となっています。

そこで、本協議会では、多摩川の自然環境を再認識するとともに、優れた自然環境や自然と共生する人の営みを保全し、失われた環境は再生し、源流本来の機能を保ち、村人の暮らしと共に持続可能な源流らしい郷を構築するために、流域の様々な分野の主体と流域パートナーシップを確立して連携・協働して取り組んでいます。

ここに注目！

地域活性も踏まえた体験学習の提供

源流自治体の共通の課題である「人工林の荒廃」「伝統芸能・文化の消失」「産業衰退」について、下流域住民・地元住民・企業・行政・大学と連携しながら、暮らしや食の根源を体験する「多摩川源流大学」という取組で地域活性化を行っています。



大学生や地域住民が参加した景観ワークショップの様子

再生課題：里山の再生

# こうのやまほぜんかつようすいしんきょうぎ 神於山保全活用推進協議会

再生  
目標

身近な自然である神於山の自然再生と今日の里山のあり方を考えることを通して、  
自然環境の大切さを見つめ直すことを通じて自然の再生を目指す。



神於山は、植物生態学的にはシイを中心とする緩帶常緑広葉樹林帯に属していますが、伐採、下草刈りなどの人為的な関わりを受けながら植生が変化してきました。

山麓部は果樹園として開墾されましたか、その多くは廃園になり、跡地はクズなどに覆われるとともに、竹林が山麓部はもとより山頂部付近にまで拡大しました。

そこで本協議会として、「森・川・海のつながり」、「人と自然・人ととのつながり」、「里山とまちとのつながり」を理念とし、長期的(100年後)な目標として「里山の再生」を掲げ、地元団体やNPO、企業など多様な主体の連携のもと自然再生を図っています。

ここに注目！

継続した担い手育成講座の実施

里山管理の担い手の育成として、20年以上にわたり講座を実施しています。地元小学校と連携した森づくり活動だけでなく、地元に赴任してきた教職員への里山講座を毎年開催し、地域の自然再生に対する共通の理解を深め、意識を向上させています。

## 自然再生の手法

- ▶ 竹林の拡大防止
- ▶ 竹林の適切な管理
- ▶ タケの利活用の推進



藤尾池から望む冬の里山



ナルトサワギクの駆除

自然再生協議会

③ 多摩川源流

④ 神於山